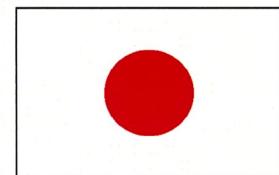
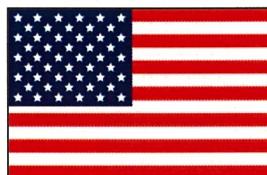


Partner

長崎日米協会

The Japan-America Society of Nagasaki



2022年 理事会・通常総会開催



2022年度理事会



2022年度通常総会

2022年8月23日(火)、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにおいて「2022年度長崎日米協会の理事会・通常総会」を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染対策に留意して3年振りの対面開催となった総会には、約30名の会員の皆様にご出席いただき「2021年度の事業・決算報告」「2022年度の事業計画・予算案」などが審議承認されました。

講演会開催

2022年8月23日(火)、在福岡米国領事館 政治経済担当領事のカサリン・ラファネロ氏に「気候危機に向けての世界協力」と題して講演いただきました。

ラファネロ領事は「昨今の気候変動は、前例のない影響（洪水・熱波・干ばつ・山火事など）を我々が暮らす地球のみならず宇宙にまで及ぼしてきている。しかし、今すぐに行動を起こせば、より安全でより持続可能な未来を築いていくことができる。そのためにはアメリカだけでなく日本も一緒に気候危機の課題に取り組み共に歩んでいきましょう！」と述べられました。



カサリン・ラファネロ領事

長崎・平和の燈籠寄贈記念 長崎交流レセプション

2022年9月16日（金）、長崎原爆資料館正面玄関前階段下において、ポートランド日本庭園財団による『長崎平和祈念燈籠寄贈式典』が開催されました。

1954年に横浜市からオレゴン州ポートランド市へ平和への願いを込めて贈られた「雪見燈籠」。今回、ポートランド日本庭園財団がポートランド市民を代表し、このレプリカを「日米の更なる友好と平和への思い」を込めて長崎市へ寄贈したものです。



式典ではポートランド日本庭園財団のスティーブ・ブルームCEOの挨拶、来賓祝辞に続きテープカットが行われました。

当協会からは中村副会長、宮西副会長、三井監事、山口事務局長の4名が式典に参列しました。

第246回アメリカ合衆国独立記念日レセプション

2022年10月28日（金）、ヒルトン福岡シーホークにおいて、在福岡米国領事館主催「米国独立記念祝賀会」が開催されました。

今年の祝賀会は「日本における野球伝来150周年」をテーマに、野球のユニフォームを纏ったアシーケ首席領事のご挨拶の後、九州・山口から集まった多くの日米両国の関係者が盛大にお祝いいたしました。

当協会からは山口事務局長が出席しました。



第13回日米協会国際シンポジウム京都大会

2022年11月3日～5日、京都市の国立京都国際会館において、「2022年度 全国日米協会連合会総会」・「日米合同代表者会議」・「第13回日米協会国際シンポジウム京都大会」が開催されました。

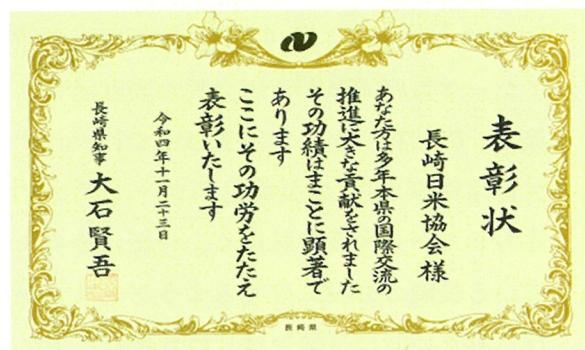
総会では2021年度の事業活動報告等がなされ、代理理事ならびに専務理事には、藤崎代表理事、岡本専務理事が再任されました。また、日米合同代表者会議では日米の各協会の活動状況が報告されました。さらに、日米協会国際シンポジウムにおいては、ラーム・エマニュエル駐日米国大使ならびに河野太郎デジタル大臣のビデオメッセージの後、「新たな日米関係について」「インド太平洋地域の安全保障」の2つのテーマで活発なパネルディスカッションが開催されました。当協会からは山口事務局長が出席しました。



2022年度『長崎県民表彰（優良団体）』受賞

長崎日米協会は、「多年にわたり長崎県と米国の文化・経済交流活動に取り組み、国際交流の推進に貢献した」功績を称えられ、2022年度の『長崎県民表彰（優良団体）』を受賞いたしました。

2022年11月23日（水・祝）に長崎県議会議場にて表彰式が執り行われ、山口事務局長が代理で出席しました。



「長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会 2022」開催

2022年12月15日（木）、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルで「長崎日米協会・長崎日英協会合同クリスマス夜会 2022」を開催いたしました。

昨年に引き続き、本年も十分な感染予防対策を行ったうえで約70名の皆様にご参加をいただき、無事に開催することができました。



プレゼント抽選会



長崎交響楽団

パーティーは宮脇雅俊長崎日米協会会長の挨拶で開会し、来賓挨拶ならびに在福岡米国領事館アシーケ首席領事からのビデオメッセージをいただきました。美味しい料理と美味しいお酒で終始和やかな雰囲気の中、長崎交響楽団によるクリスマスアンサンブルの演奏や毎年恒例のプレゼント抽選会が行われ、会場は大いに盛り上りました。



長崎日米協会 宮脇会長



チュカ・アシーケ
在福岡米国首席領事



長崎日英協会 三井会長

在福岡米国領事館 チュカ・アシーク首席領事來訪

2023年1月17日（火）、在福岡米国領事館チュカ・アシーク首席領事が宮脇会長を表敬訪問されました。懇談は、終始和やかな雰囲気の中で行われました。アシーク首席領事からは「長崎はスタートアップ企業の創出に注力しており大変興味深く、今後はそのような動きをしている長崎のお役に立てるようアメリカから投資家を呼び込みたい」、「長崎をはじめ九州の学生たちと共に過ごす時間はとても刺激的で、若い人たちの意見を聞いてみたい」といったお話しがありました。また、「今年の長崎日米協会のクリスマスパーティに是非参加したい」ともおっしゃってくださいました。当協会からは山口事務局長も同席しました。



第10回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯 英語スピーチコンテストを後援

2022年11月6日（日）、活水女子大学東山手キャンパスで「第10回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト」がオンラインで開催され『グローバル社会の一員として考える』をテーマに参加者が英語スピーチを披露しました。



【審査結果】

- 第1位 外山 花音さん（福岡女学院大学国際キャリア学部国際英語学科1年）

スピーチタイトル: The Nikkei: Japanese Descendants Around the World

外山さんは外国で暮らす日系移民について調査し、逆境の中でもめげずに生きてゆく人々の姿勢に衝撃を受けました。将来は歴史家になり、移民が受ける差別や偏見を記録し、それらを差別のないより良い未来への教訓として残したいとの抱負を、ネイティブとほとんど変わらない流暢な英語で伝えました。

- 第2位 森 芽衣花さん（活水女子大学国際文化学部英語学科4年）

スピーチタイトル: The Importance of Self-Awareness and Mutual Respect

森さんは留学生のルームメートがいて、生活を共にする中、文化や生活様式の違いに気づき、それが日本人としての自己認識につながったというエピソードをいくつか披露してくれました。ジェスチャーを豊富に使いながら、実体験を通じて学んでいくことの大切さを語りました。

- 第3位 米澤 知里さん（福岡大学医学部看護学科1年）

スピーチタイトル: Let's Talk About Education

米澤さんは教育を受ける権利を全ての子どもたちに保証することの重要性を語りました。子どもはそれぞれ独自の能力や創造力を持って生まれてくるが、教育の機会が保証されなければそれらの能力も活用されず、世界にとって大きな損失になってしまうと抑揚を効果的に用いて訴えました。

長崎県高等学校英語スピーチコンテスト・英語ディベート大会を後援

◆ 第31回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト

2022年10月2日(日)、長崎県立西陵高等学校で「第31回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。大会には県内各地から9名が参加し日頃の成果を披露しました。

- 【結果】
1位 門 優帆さん（長崎東高等学校 2年）
2位 林田 芽依さん（口加高等学校 2年）
3位 只熊 莉奈さん（諫早高等学校 1年）



【門 優帆さんの感想】

私が「長崎県高等学校スピーチコンテスト」の存在を知ったのは、高校1年生の時に母や当時の担任の先生に勧められたことがきっかけでした。もともと人前で話すことが苦手だったこともあり、大勢の人の前でスピーチを行うことに勇気をだして挑戦することができなかった私が、今回参加に踏み切ったのには理由があります。それは英語のスキルを向上させたい、自分が話す英語で誰かに気持ちを伝えたいと思ったからです。私の今回のテーマは、LGBTQ や男女間の差別について探究を行っていく中で学んだ、コミュニケーションをとることの大切さや、人の発言や態度、行動の背景にはそれぞれの考え方や理由があること、そしてそれらを考え直すことでの理解を深め合うことができるところを伝えることができました。私のスピーチを通して、オーディエンスが私の伝えたい思いや体験談を彼ら自身に置き換える、自分と周囲の人々の行動や発言を見直すきっかけになるように意識して原稿作りを始めましたが、一筋縄ではいきませんでした。5分30秒の中に、聞き手が共感や想像しやすい具体例や印象に残りやすいインパクトのある言葉を詰め、そこに強弱や高低を含ませた声を乗せることの難しさを痛感しました。しかし練習を重ねる中で、自分の想い(言葉)が人々に届いていく実感とその楽しさに気付くことができました。今回、このような貴重な機会を与えてくれたこのコンテストにとても感謝するとともに、この想いを忘れず、そして自身の考え方や意見を言葉にして主張することが苦手だった私だからこそできるスピーチ、このことを目標に九州大会という大きな舞台で堂々と発表ができるよう努力を重ねていきます。

◆ 第17回長崎県高等学校英語ディベート大会

2022年10月8日(土)長崎県立東高等学校で「第17回長崎県高等学校英語ディベート大会」が開催されました。

大会には、県内各地より5校6チーム30名が参加し日頃の成果を発表しました。



※上記2校は11月12日(土)、13日(日)開催の「九州地区高等学校英語ディベート大会」に出場しました。

野崎元会長を偲んで

1990年8月より2004年8月までの14年間もの長きに渡り、第2代会長として当協会の活動と発展のためにご尽力いただきました野崎元治元会長が2023年5月20日にご逝去されました。

日頃より長崎と米国との深い関わり合いを大切にした協会活動を重視され、様々な事業を通じた日米の平和交流に、積極的に取り組んで来られました。



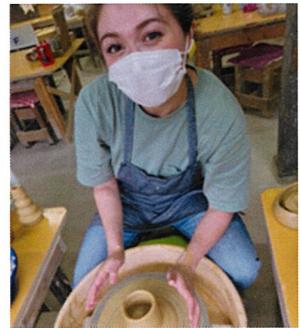
ここに野崎元会長のこれまでのご功績に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局長 山口 和樹

長崎市内小中学校 ALT

こんにちは！エリサ ヒメネス(Elisa Jimenez) です !!

私は、長崎市で2021年10月から外国語指導助手(ALT)として勤めているエリサと申します。28歳です。アメリカ ピッツバーグで生まれ育ちましたが、父がメキシコ出身でしたので、毎年夏休みになるとメキシコに住む祖父母の元を訪れていました。また、中学生の時には3年間、カナダのケベック州に住んでいたこともあります。幼少期からそのような環境で育ったこともあり、海外に興味を持つようになり、特に日本に興味を抱くようになったのは、小学校4年生の時、スー先生(旧姓は吉田でした)という担任の先生がきっかけです。



スー先生はアメリカの出身なのですが、ご両親が日本出身であったことから、小さい頃から日頃の会話は日本語を使って育てられたそうです。当時、私とクラスメートは時々とてもうるさくて気難しいところがありました。そのような時でも、スー先生は決して怒鳴ったりはしませんでした。その代わり、日本の何か面白いことを教えてくれたのです。また、日本語の簡単な単語やフレーズを教えてくれることもよくありました。例えば、10までの数え方とか、「おいしい」ということとかです。その瞬間から、私は日本語に魅了されるようになりました。日本語はとても美しいと思いましたし、それを学びたいと思いました。しかし、私の町には日本人があまりいませんでした



ので、日本語を勉強することはとても大変でした。そして、その頃からいつか日本に行くのが私の夢となりました。

17歳の時、熊本に半年間留学する機会を得ました。私はとても興奮しました。留学先である熊本のホストファミリーはあまり英語を話すことができませんでしたが心配はしていました。私にとっては日本語を学ぶ絶好の機会だったからです。留学当初は日本語がまったく話せなかつたので一生懸命勉強しました。その甲斐もあって、すぐに日本語で会話できるようになりました！

留学中にはホストファミリーとともに、愛媛県を車で旅しました。松山市では景色がとても美しくて感動しました。そしてホストファミリーは常に私にとても親切してくれました。私は彼らの寛大さを決して忘れません。私は"日本のすべてがとてもきれいだ"と思いました。彼らのおかげで私は言葉以上のものを学び、日本を大好きになりました。ホストファミリーと日本人のクラスメートは食べ物、様々な場所、深い文化など、日本の様々な面を見せてもらいました。うどんや回転寿司、焼肉なども食べに連れて行ってくれました。阿蘇山や別府、長崎にも一緒にきました。学校では茶道部に入り、日本文化における茶道の位置づけを学びました。

そんな楽しい留学の時間はあっという間に過ぎ、帰国する日が来ました。あまりにも早すぎる！アメリカに帰国した私は、必ずいつの日か日本に住もうと決意しました。そして日本に行くことを夢見ながらアメリカの大学で日本語の勉強を続け、頻繁に熊本のホストファミリーと日本人の友人と連絡を取り合いました。この期間はとても寂しかったです！それから約10年後、私はJETプログラムに参加することが決まり、念願の日本行きが決定しました。まず最初に私が配属されたのは長崎県長崎市でした。高校時代に住んでいた熊本から近い場所でとてもよかったです。そして、2021年の10月からここ長崎にいます。日本に戻ってこれて本当にうれしいです！私の故郷とは何もかもが違っています。自然は美しく、町の雰囲気もリラックスしており、人々は人懐っこいです。

九州は本当に最高だと思います！一度だけでなく、二度も日本に住むことができたのは、私にとって大きな成果です。日本行きを待つことが難しい時期もありましたが、日本に行くことは私の夢でしたので、決してその夢を諦めることはありませんでした。夢が叶って本当によかったです。